

逃げる場所 いつも考えて

間もなく、東日本大震災から2年がたとうとしています。自然災害などで命を落とした多くの人々を悼むとともに、地域の防災についても考える機会です。私たちが住む沖縄に大きな地震は来ないのでしょうか？ 沖縄本島の近くでは2010年にマグニチュード7を超える大きな地震が起きています。地震や津波が、もしも襲ってきたら、どこに避難して命を守ればいいのか。県建築設計サポートセンターの天野輝久指導員が2月19日、那覇市立曙小学校で5年生を対象に防災について学ぶ授業を行いました。



天野輝久さん

天野輝久さん 曙小で防災授業

「自然災害が起きた時、どこに逃げるかを家族で話し合っていますか？」。地震や建物の耐震に詳しい天野さんが問いかけると、手を挙げたのは61人中約半分でした。曙小は海から近く、直線で約300mの場所にあり、学校に在る時に自然災害が起きた場合、避難場所は天久ちゅら町公園。同校はこれまでに繰り返し避難訓練をしてきました。

天野さんは「震度5強か6弱クラスの地震で津波がやって来る」と強調しました。2010年2月、沖縄本島の南東100kmの場所で地震が発生、糸満市で震度5弱を観測しました。

授業の中では、地震が起こるメカニズム、津波警報の規模、災害から身を守る方法などが紹介されました。

地震は活断層で発生するものと海溝型地震があります。これまで繰り返し地震を起こし、今後も地震が発生すると考えられている断層が「活断層」です。1995年に起きた阪神淡

路大震災はこのタイプです。海と陸のプレートの接触によって起き、ときには津波を伴う大地震になるのが「海溝型地震」です。

避難する際には、群馬大学大学院の片田敏孝教授が主張する「避難の3原則」を参考にしてほしいと言います。①想定にとられるな②最善を尽くせ③真っ先に逃げろ一です。

天野さんは「東日本大震災の時、釜石市では避難の3原則を守ったおかげで多くの児童と家族の命が救われた」と説明しました。

児童たちは「津波の大きさによって注意報、警報などに分かれていると知った」「自然災害の恐ろしさが分かった」など理解を深めた様子でした。授業で扱った内容は「防災・減災ハンドブック沖縄版」で取り上げられています。問い合わせは県建築設計サポートセンター☎098(879)1020。

「避難3原則」など紹介



地震や災害について学ぶ児童たち。2月19日、那覇市立曙小学校

片田敏孝教授の「避難の3原則」

- 1 想定にとられるな** 自然災害は想定をはるかに上回ることもある。自分自身で判断せよ！
- 2 最善を尽くせ** 一番安全な所に走って逃げよ。決してあきらめるな。
- 3 真っ先に逃げろ** 君が一番最初に逃げ出すことがみんなを引っ張り、多くの命を救う！

※河北新報(2011年11月26日付)を基に構成